

題名：横浜労災病院で 4cm³ 以上の脳転移に対する寡分割定位放射線治療を受けられた患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	4cm ³ 以上の脳転移に対する寡分割定位放射線治療の治療成績と予後因子—至適処方線量 EQD ₂ と放射線壊死予測指標の検討— (-)
当院の研究責任者 (所属)	松永 成生 (脳神経外科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	4cm ³ 以上の脳転移に対する放射線治療では、腫瘍を制御するための「十分な線量」と、副作用である放射線壊死を防ぐための「安全な線量」のバランスを取ることが非常に重要です。本研究では、過去の治療成績を詳細に解析することで、腫瘍の大きさに応じた最適な放射線量 (EQD ₂ : $\alpha/\beta=10$ 換算) と、副作用を予測するための最も正確な指標 (EQD ₂ : $\alpha/\beta=2$ 換算の低線量域体積) を明らかにし、今後のより安全で効果的な治療計画に役立てることを目的としています。
研究の方法 (利用する試料・情報)	対象となるのは、当院で 4cm ³ 以上の脳転移に対して寡分割定位放射線治療 (5 回または 10 回に分けた照射) を受けられた患者さんであり、その後の経過が追跡可能な方です。診療録、画像データ、治療計画 (放射線の線量や体積) などの既存情報のみを用います。新たな検査や採血などのご負担は一切ありません。 研究実施期間: 2026 年 10 月～2027 年 9 月
利用する試料・情報の 該当期間	2014 年 1 月～2025 年 12 月 (※直近の治療データを含む)
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	予定しておりません。
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

(利益相反)	
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：松永 成生 (所属：) 脳神経外科
備考	